

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	どれみ・学び研究所		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 29日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援と集団支援を分けて実施し、利用者一人ひとりの発達段階や特性、ニーズに応じて支援形態を柔軟に選択しながら、音楽を取り入れた無理のない支援を行っている点。 また、個別と集団それぞれの良さを活かし、安心して参加できる環境づくりを大切にしている。	音楽活動において、子どもの状態や特性に応じて無理のない参加形態を選択し、安心して関わられるよう環境づくりや関わり方を工夫している。 子どもが自分のペースで音楽に親しめることを大切にし、安心感のある雰囲気づくりを心がけている。	個別支援・集団支援それぞれの特性を活かした音楽プログラムの充実を図り、子どもの発達段階や特性により適した支援が提供できるよう、支援の質の向上に継続的に取り組んでいく。
2	音楽活動において、子どもの状態や特性に応じて無理のない参加形態を選択し、安心して関わられるよう環境づくりや関わり方を工夫している。 子どもが自分のペースで音楽に親しめることを大切にし、安心感のある雰囲気づくりを心がけている。	音楽活動の中で、子どもの反応や興味、表情の変化などを丁寧に観察し、その時々様子に応じて支援内容や関わり方を柔軟に調整している。 一人ひとりの小さな変化を見逃さず、大切な情報は職員間で共有し、より適切な支援につなげられるよう意識して取り組んでいる。	音楽支援に関する知識や技術の向上を図るとともに、子どもの興味や発達段階に応じた音楽プログラムの見直しや工夫を行い、より効果的な音楽支援の実践につなげていく。
3	音やリズム、さまざまな楽器を活用し、言葉での表現が難しい子どもでも安心して参加できるよう、一人ひとりに配慮した支援環境を整えている点。 非言語的なコミュニケーションも大切にしながら、子どもが自分らしく関わられる場づくりを心がけている。	保護者会の開催や日常的なコミュニケーションを通じて、保護者の思いや意向を丁寧にくみ取り、支援や運営に反映できるよう努めている。	利用者や保護者のニーズを丁寧に把握し、その声を支援に反映できるよう、支援方法の見直しや改善を定期的かつ継続的にやっていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物が築年数の経過した施設であり、構造上バリアフリー対応に限界がある点が課題であるが、環境設定や職員の配慮、支援方法の工夫により、利用者が安全かつ安心して過ごせるよう引き続き改善に努めていく必要がある。	建物の構造や築年数による制約があり、設備面で十分なバリアフリー対応が難しいことが要因となっている。	建物の構造上の制約を踏まえつつ、動線の工夫や環境設定の見直し、職員による見守りや声かけを強化することで、利用者が安全かつ安心して過ごせる環境づくりを進めていく。
2	研修の実施や避難訓練等、事業所内で行っている取組について、保護者への周知が十分とは言えない点が課題であるため、今後は情報発信の方法を見直し、分かりやすい周知に努めていく必要がある。	研修や避難訓練等の取組について、保護者へ伝える機会や方法が限られており、十分に情報が届いていないことが要因と考えられる。	研修や避難訓練等の実施内容について、保護者会やお便り、連絡ツール等を活用し、分かりやすく丁寧な情報発信を行うことで、事業所の取組への理解を深めてもらえるよう工夫していく。
3			